

シリーズ タンチョウ Vol. 359

鶴居村教育委員会タンチョウ自然専門員

音 成 邦 仁

☎64-2050 / FAX64-2900

鶴居 タンチョウ

検索

タンチョウの数かぞえ調査の結果

毎年恒例のタンチョウの数かぞえ調査（正式名はタンチョウ越冬分布調査／北海道主催）の第1回目が12月5日に、第2回目が1月22日に実施されました。この調査は同じ日の同じ時間帯に全道各地でタンチョウを確認・記録するもので、昭和27年（1952年）から続けられています。1回目の全道の集計結果は1月中旬に発表され、2回目の結果は2月下旬以降に発表される予定です。

鶴居村では、毎年全小中学校の児童生徒や住民有志にご参加いただき、全村的にくまなく調査する体制ができています。今回も1回目に118名、2回目に61名が参加しました。このように地域を挙げて実施しているのは鶴居村だけです。

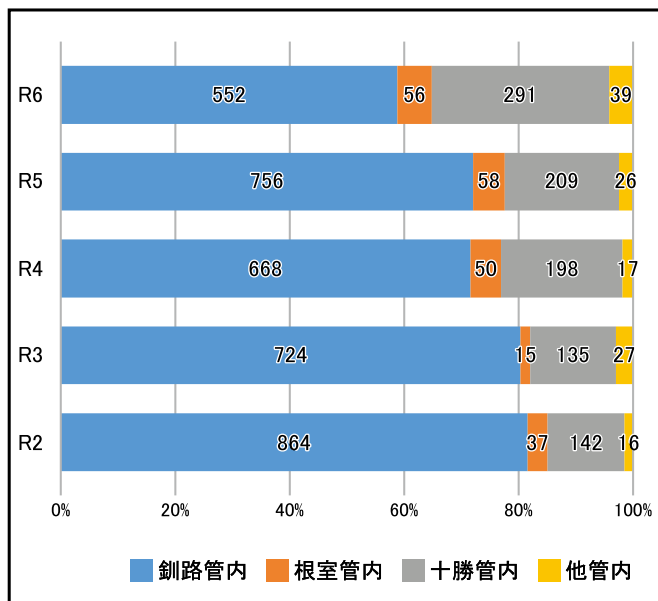
気になる確認羽数は、1回目調査で198羽、2回目調査で595羽と、いずれも前年度より88羽少ない結果となりました。ただ、当日の天候等により確認のしやすい年としづらい年がありますので、村内に生息するタンチョウが減少したのかどうかはわかりません。

繁殖地に残っているタンチョウが少なくない時期の1回目調査では、釧路管内で552羽、全道で938羽が確認されました。相変わらず釧路管内の占める割合は高いですが、ここ数年では年々羽数・割合とも減少傾向が見られ、十勝管内で増加傾向が見られます。今冬は特に積雪が少なかったので、繁殖地に居残る傾向が強かったのかもしれません。

越冬地への移動がおおむね終わっている時期の2回目調査では、給餌場での確認羽数が少なく、特に鶴見台では前年度より124羽減となりました。一方で支幌呂地区では30羽程度の群れが見られ、前年度より23羽増となりました。また給餌場に集中しない15時前後の調査では、確認場所全体のうち農場敷地内やその周辺での確認が1／3以上を占め、相変わらず農場への依存傾向が見られました。

生息地分散を促す取組が進められている中、村内では給餌場のない周辺地区への分散が進んでいるようにも見えます。ただし、一時的なことかもしれませんし、全道の集計結果が出ていない中での判断は早計です。生息状況については広い視野で経年変化にも注目しながら慎重に考察することが大切です。

第1回調査の管内別確認羽数の推移(R2～R6)



第2回調査の村内地区別確認羽数の推移(R2～R6)

地区	確認数				
	R2	R3	R4	R5	R6
1 中久著呂	2	7	10	5	7
2 下久著呂	85	59	49	44	37
3 茂雪裡	4	3	3	7	5
4 支雪裡	0	5	5	3	7
5 中雪裡	231	170	171	204	209
6 下雪裡	292	337	287	357	233
7 新幌呂	2	2	0	2	0
8 上幌呂	6	0	3	0	3
9 支幌呂	31	25	26	32	55
10 茂幌呂	1	6	2	3	4
11 中幌呂	13	8	9	12	15
12 中幌呂下	22	19	9	10	14
13 下幌呂	9	6	5	4	6
合計	698	647	579	683	595